



特別
5
6057
3上



15
605
3止



柳園藏

56-4150



○俳諧系正二重題号一評判返答并一

自叙
杜若

一 此書と俳諧系正二重題号一なるもの題号何れを公
けりてかきし事とるべきか流のあつて何れか
いふれど人のいふにあらざる人よおきて
此書は野馬のいふにあらざるにあらざるに
りよまらざるにあらざるにあらざるに
とくとも自序よりあらざるにあらざるに
あらざるにあらざるにあらざるに流の書は
号付つてあらざるにあらざるに流の書は
記すともあらざるにあらざるに流の書は

○自序評判返答

一 他人に教ふと批評するに流もあらざり
たるとあらざるにあらざるに流の書は
されぬけ自叙のいふにあらざるに流の書は
流の文高れ眼には中へ合點ゆゑに人の
やうにあらざるにあらざるに流の書は
や流の文高れ眼には中へ合點ゆゑに人の
よとあらざるにあらざるに流の書は

○嘲諷 風花雪月の流と虚保行をよる文書

○三

○三

一を指提記の文は...
 言の...
 吾徳...
 能師...
 果...
 音...
 ...
 ...
 ...

○平自雲髻遠遊...
 于茲...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...

○

○

○三
それはけい白のりて能指といふるは乃
もそのり人復まら運と神神杜る母と
約要とらるるのりそれと事とらるれ
ことくこのりさうか隈れ約は威して風
多れせしやなはりしなりこれと唐ふ
て東風風のり一事の事れ河は唐庭
も係し周文王れ河は岐陽のりは孔子
れ河のりもさうし風もれ子孫れは威て
ゆしことより終る唐のりさうこのり
これの流るるをれいしは水作記の撰述

○題曰雜語系此二言其體
麗密潔自固非他邦所撰也遂授諸割
剡氏繡梓廣傳之爾之けい白と自備のり
ゆりそ所謂麗密れ二字の據解は之得實
長頭末可致焉潔自繡紉之色也非他邦所
及謂邊鄙所織出無若此繡者也これ能實
文はのり主意いけとに所載の語中と事能解所
まの傑作逸句誠に中華れ風もりて夷中
能指のりさうわすしことこれ能實

○三
○四

則に同りりれとの偏に人と水とのりりり
し四子に文選第百四十五卷東方朔の荅客難
み以世居穴窺天ぬ^{テハラカヒ}測海^{ハカル}と云河と昔窺^{クシキル}難^{シイ}
測と切るる文字なり其は文れむられ難れ
し々^{シキ}難れしうらしとて^{シキ}海^{シキ}中^{シキ}歴^{シキ}
く^{シキ}島^{シキ}の^{シキ}作^{シキ}と^{シキ}あ^{シキ}く^{シキ}海^{シキ}の^{シキ}
入^{シキ}り^{シキ}の^{シキ}あ^{シキ}ら^{シキ}の^{シキ}あ^{シキ}ら^{シキ}の^{シキ}あ^{シキ}ら^{シキ}
海^{シキ}の^{シキ}あ^{シキ}ら^{シキ}の^{シキ}あ^{シキ}ら^{シキ}の^{シキ}あ^{シキ}ら^{シキ}
は^{シキ}長^{シキ}の^{シキ}あ^{シキ}ら^{シキ}の^{シキ}あ^{シキ}ら^{シキ}の^{シキ}あ^{シキ}ら^{シキ}
お^{シキ}入^{シキ}り^{シキ}の^{シキ}あ^{シキ}ら^{シキ}の^{シキ}あ^{シキ}ら^{シキ}の^{シキ}あ^{シキ}ら^{シキ}

タハコト
美言れおひさのてわしと^{ツイヤ}費^{ツイヤ}の^{ツイヤ}ゆ^{ツイヤ}

一 下七条より徹初より休借系解二重にてこの世を
れ教のしくを評判して永代記の四二冊を
あよりりのふり細く作り能るよりしてこの世を
るを^{ツイヤ}好^{ツイヤ}ま^{ツイヤ}と^{ツイヤ}ら^{ツイヤ}切^{ツイヤ}ん^{ツイヤ}と^{ツイヤ}す^{ツイヤ}ら^{ツイヤ}播^{ツイヤ}道^{ツイヤ}ゆ^{ツイヤ}あ^{ツイヤ}
く^{ツイヤ}ん^{ツイヤ}か^{ツイヤ}ら^{ツイヤ}し^{ツイヤ}ら^{ツイヤ}の^{ツイヤ}あ^{ツイヤ}ら^{ツイヤ}の^{ツイヤ}あ^{ツイヤ}ら^{ツイヤ}
古^{ツイヤ}お^{ツイヤ}れ^{ツイヤ}ら^{ツイヤ}の^{ツイヤ}あ^{ツイヤ}ら^{ツイヤ}の^{ツイヤ}あ^{ツイヤ}ら^{ツイヤ}
く^{ツイヤ}離^{ツイヤ}の^{ツイヤ}あ^{ツイヤ}ら^{ツイヤ}の^{ツイヤ}あ^{ツイヤ}ら^{ツイヤ}
し^{ツイヤ}の^{ツイヤ}童^{ツイヤ}部^{ツイヤ}れ^{ツイヤ}の^{ツイヤ}あ^{ツイヤ}ら^{ツイヤ}の^{ツイヤ}あ^{ツイヤ}ら^{ツイヤ}

評判りつゝ人みしはさぬ難せられん
 中へもはれぬる意を流しつゝより
 も答ふよししはすもつれをよして永代記と
 けふふちりけしゆのちの又くふふしと
 名をぬいておのるものなりしと云ふ
 應美せられて懸ふ人わりの中へは
 りふふたれ白

流判云

意入ん人ふまれ人通りの

は白の三条よりいふ事らうの事

それらにむしてはまれ人の意の

二ふれか世さうのひあつて
 ははちとひもておん流の
 能備は能備もは法自の
 のいして

夜ふたねとまれと

といふのふかり難言は流の
 思ふものもして難せられん
 よる永代記批言足掃とらふ
 け事しせられ人のいふ
 足掃よはらふしはふ掃の

さかちんさなれは採ひしむらひのよりに
しららしむらふ華とてしむらふ年一うらむら
りむらむらむらむらむらむらむらむらむら
とむらむらむらむらむらむらむらむらむら
のめいりむらむらむらむらむらむらむらむら
のむらむらむらむらむらむらむらむらむら
をむらむらむらむらむらむらむらむらむら
むらむらむらむらむらむらむらむらむら
むらむらむらむらむらむらむらむらむら
むらむらむらむらむらむらむらむらむら
むらむらむらむらむらむらむらむらむら

○杜若歌句集判題

さかちんさなれは採ひしむらひのよりに
採ひ

さかちんさなれは採ひしむらひのよりに
しららしむらふ華とてしむらふ年一うらむら
りむらむらむらむらむらむらむらむらむら
とむらむらむらむらむらむらむらむらむら
のめいりむらむらむらむらむらむらむらむら
のむらむらむらむらむらむらむらむらむら
をむらむらむらむらむらむらむらむらむら
むらむらむらむらむらむらむらむらむら
むらむらむらむらむらむらむらむらむら
むらむらむらむらむらむらむらむらむら
むらむらむらむらむらむらむらむらむら

⑪
⑫
⑬
⑭
⑮
⑯
⑰
⑱
⑲
⑳
㉑
㉒
㉓
㉔
㉕
㉖
㉗
㉘
㉙
㉚
㉛
㉜
㉝
㉞
㉟
㊱
㊲
㊳
㊴
㊵
㊶
㊷
㊸
㊹
㊺
㊻
㊼
㊽
㊾
㊿

⑬
⑭
⑮
⑯
⑰
⑱
⑲
⑳
㉑
㉒
㉓
㉔
㉕
㉖
㉗
㉘
㉙
㉚
㉛
㉜
㉝
㉞
㉟
㊱
㊲
㊳
㊴
㊵
㊶
㊷
㊸
㊹
㊺
㊻
㊼
㊽
㊾
㊿

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or a page from a manuscript. The text is dense and fills most of the page.

Handwritten text in a cursive script, continuing from the previous page. The text is dense and fills most of the page.

紅の評判道巻宛

その社若れむいふの命あつらひて
まにまののり早しはなもまに
れむといひて流流と年とに
古くれむはらひて

るる鷺のいひらふむおすらうらむれ

ひむく味くおむむするる鷺れ

白がり ハラサキ

早し鷺のい
社よれむらむれ

鷺鷺よるるれ中ふむ社ら
林鷺

林鷺よらむて下社らとらむ
とむくむ花のたきむわりむら
あふれ文りむてむれとらむ
むらこは フナシ 鷺のいむらむれむら
鷺れい社らのむらむら林鷺

るる鷺れむらむらむら社ら

えむらむらむらむらむら社ら

るる鷺よるるれ中ふむ社ら

あむらむらむらむらむら社ら

といふむらむらむらむら社ら

白鷺も鷺もほひれ鷺りよこの鷺助と
毛ほひぬあかきまれりさる信りあ
糸し池しれわりよしてなれし池し
くまらるうしうぬぬしうわりぬ
ぬはらうまれし花りぬまらぬわし
一作と鷺れりよ

向うしてゆぬ

重文

くわあや 池し けわりけり

平しむのく池のさりとと
一作わら割れよとひくしてま
れ珍れらう鷺と拾ひれまれ

向うして

くわあや 池し けわりけり
酒樂

わく奥しくて果ち
まき鷺れ火しぬけりなかり
くまらるうしうぬぬ

④三
⑤
おろく川水よわさきし 狂る 喜ぶ

おろく川めくさるわんせ
よしとよきま

おろく川もぐりくもめさほさ 蟻也

おろく川
狂ると通りて

狂る 田れ 美と ところ あり し あり 鬼 顔

釣と とも 鴨と とも 活れ 狂る 柳 磨

けし 狂ると とも とも けさ 狂ると 狂る

おろく川 狂る の ところ あり 狂る 角 流

狂る 小 狂る 又 狂る 狂る 萬 可

狂る 水 狂ると とも 狂る 狂ると 正 南

目よ 狂ると 魚 狂ると とも 狂ると 不 残

礎 や じ しの 狂ると とも 狂ると 釣 風

根と 狂ると とも 狂ると とも 狂ると 狂ると 狂ると

おろく川 一本 狂ると 一 狂ると

伊くしと飛札とちけー仕る 嵐水
 風吹くしとみくぬくぬく友冠
 わめくせぬれぬぬ仕る 如木
 旅人れ入白と行しじうとほと 行路
 仕るえしと来てすくに益孫成 湖月
 本ゆりれ目くぬん仕る ^女きよ
 け池くわあくぬぬー仕る ^{男女}くわ

田舎ゆや暖むてはくしむぬぬと可水
 目くしりよとけたによぬれ仕る 立夜
 舟漕て好くぬくぬく東山
 善くぬぬぬぬぬぬぬぬ 堂橋
 骨くぬぬぬぬぬぬぬぬ 一友
 仕る来ぬ達ニや一眠り 幸作
 暖りしぬぬぬぬぬぬぬぬ 百成

く鯉れりふと命よ仕る 朝蓮

咲ゆり 時計 負りり仕る 光寛

わりんよ滞 借金 ぬとほと 洞水

依るよ 列して

城のれ 塔より 孫より 仕る 御枝

早し 女れよに 世信よ 故言

川原の 下より 仕る 利格

昔よ せとる 仕る 仕る 怪果

音よ 寝ぬれり 仕る 仕る 花水

何れ 仕る 仕る 仕る 立花

流し 仕る 仕る 仕る 花枝

唯 半も 仕る 仕る 仕る 葉子

あつ 仕る 仕る 仕る 梅水

あつ 仕る 仕る 仕る 柳梅

行是の江のりやうもくもく水月

あまをや居たりくはの杜も 西津

礎もくあいにくくく 手船

又月も溜るじとあぐく 杜も 小車

梅りきふや直衣れ神の 徳門七尾

き暈ふく海懸くく 杜も あま

あまより乾のれ 樹水

愛もやあまはけ 杜も 柳江

砂柔れりし 杜も 知程

任奥の毒もく 杜も 水

眩くく 孤松

あまや魚遊く 亀鱗

きり 好友

別 杜も

別 杜も

唯切もゆら 咲花をうけつと一水

杜より まゆ流るわめ此何ゆ 加列 一水

あつら雨よ曲りて 咲 細甲石初 ぬ杜より 但列巻思 字白

夜夜 籠りし 蓋もらん 此何 加列松任 美揚

古池や 新 乾る ぬ 加列松任 美之

此礼や 寝て ぬ 加列松任 此何 花車

井の戸よ 妻や ぬ 加列松任 此何 山姥

目よ じりあをりの 敷乃う 此何 加列松任 普水

汗骨や 花とれ ぬ 加列松任 此何 仙露

あられ 粉れ ぬ 加列松任 此何 席草

ゆり 袴や ぬ 加列松任 此何 可奈

ふ 袴 二田 ぬ 加列松任 此何 玉水

板 袴や ぬ 加列松任 此何 可奈

早し 女れ 母よ ぬ 加列松任 此何 可奈

とれきやまのし葉りさむら 陽 神虎

勢あふく袖ふん長し 子列 狂り 係討

新の人のあし 田辺 のよき 大坂 病後

縁人のにくし 日 ぬむ 日 狂り 係討

川あしとをれを流ちり 日 狂り 係討

入ね 日 狂り 係討

跡ふれ 日 狂り 係討

里人や 江 狂り 係討

とれ 日 狂り 係討

州 日 狂り 係討

は 日 狂り 係討

井 日 狂り 係討

橋 日 狂り 係討

は 日 狂り 係討

①

②

人の心は
 一も二も
 三も四も
 五も六も
 七も八も
 九も十も
 十一も十二も
 十三も十四も
 十五も十六も
 十七も十八も
 十九も二十も

風を吹かして
 波をたぎらして
 雲をたぎらして
 雨をたぎらして
 雪をたぎらして
 霜をたぎらして
 露をたぎらして
 霧をたぎらして
 霞をたぎらして
 煙をたぎらして
 塵をたぎらして
 砂をたぎらして
 石をたぎらして
 土をたぎらして
 木をたぎらして
 草をたぎらして
 花をたぎらして
 果をたぎらして
 葉をたぎらして
 根をたぎらして
 幹をたぎらして
 枝をたぎらして
 葉をたぎらして
 果をたぎらして
 葉をたぎらして
 根をたぎらして

書事... へはれ...
と...
Ⓜ

おのれも... せん

おのれも... せん

おのれも... せん

おのれも... せん...
徳

おのれも... せん...
徳
おのれも... せん...
徳
おのれも... せん...
徳
おのれも... せん...
徳

おのれも... せん...
徳

おのれも... せん...
徳

東———や接ひ魚けり此の如
———らんこほりさ
ふちく———りたより
松れ接ひ露れ葉もわり杜より 鞭石
家り———りさゆり———り
掉———り葉もわり杜より 柳皮
杜より 誰り端端れより心を 湖外

み音々と野もわり杜より 大校

又 接ひぬ葉りさゆり

ふ———りさゆりさゆり城の端 好む
ふもや肌骨にわくはれさ 虫依
接れもや葉もわりさゆり 常言
杜より———り葉もわりさゆり 吟脛
ふれ人の可きよふれ杜より 周旋

①

②

何魚れ口りりきつははははは
りりりりりりりりりりりりりり
ははははははははははははははは
ははははははははははははははは

又 杜よりれ白くりりりりり

八指や魚れまきりりりりりりり
尾寺もきりりりりりりりりりり
りりりりりりりりりりりりりり
りりりりりりりりりりりりりり

道りりりりりりりりりりりりりり
りりりりりりりりりりりりりり
りりりりりりりりりりりりりり
りりりりりりりりりりりりりり
りりりりりりりりりりりりりり
りりりりりりりりりりりりりり
りりりりりりりりりりりりりり
りりりりりりりりりりりりりり
りりりりりりりりりりりりりり
りりりりりりりりりりりりりり
りりりりりりりりりりりりりり

漂りりりりりりりりりりりりりり
りりりりりりりりりりりりりり
りりりりりりりりりりりりりり
りりりりりりりりりりりりりり
りりりりりりりりりりりりりり
りりりりりりりりりりりりりり
りりりりりりりりりりりりりり
りりりりりりりりりりりりりり
りりりりりりりりりりりりりり
りりりりりりりりりりりりりり
りりりりりりりりりりりりりり

りりりりり

惣塔や秋の枝をさして杜より探る 胡列 七尾

湯のやじりたすくさくさ 又段

山崩積るふは久やうき さ

持積やまふさえ 如列

杜より名を唱ふ 又列

上積れ水白ひり うはは

伊勢 うはのちり 早し女花 小 水

又杜よりれ白とちり新

徳骨おろけり の 対 や 杜より 固水

又地や猫も や 杜より 御水

り の 西や は 籠焼く は 可圓

深 は 杜より の 林 を

う は 杜より は 紐 の 杜より 色

白 は 杜より は 杜より 如 は

うきうきと裸しるるさきあは 如心
まろびくしるるさきあは 常水

又北より南より

多羅も田代陽れ池水うき流る 如泉
花人や 關西^{ナニ}東^ト折^リりて北より 信徳
北より南より 常水
潮きぬほより南より 常水

竹垣とほしりり北より 常水
流るれりり北より 常水
とほくと北のりり北より 常水
産るれりり北より 常水

貞徳永代記者隨流所作詩首
淺鄙高き者無人面^ニ睥^ニ睨^ニ也^ト俳師^ト

テラテラ^{テラテ}ヲ^ラム^ムニ^ニフ^フラ^ラニ^ニイ^イツ^ツク^クニ^ニウ^ウラ^ラ
街^街ニ^ニ来^来信^信可^可謂^謂遺^遺真^真萬^萬年^年一^一寒^寒土^土
正^正路^路之^之奸^奸人^人也^也於^於是^是雲^雲鳳^鳳子^子孫^孫鴻^鴻慶^慶
失^失貞^貞德^德之^之正^正風^風辭^辭而^而關^關之^之廟^廟如^如也^也
讀^讀者^者不^不以^以辭^辭害^害志^志幸^幸甚^甚哉^哉

乞^乞祿^祿矣^矣而^而夷^夷則^則上^上流^流

字^字子^子明^明人^人

一^一計^計後^後

